2025年２月27日

各　位

会 社 名　フトン巻きのジロー株式会社
（コード番号　9167　TOKYO PRO Market）
代表者名　代表取締役社長　森下　洋次郎
問合せ先　取締役　梶川　量由
T　E　L　028-666-4218
U　R　L　https://futonmaki.jp

業績予想の修正及び減損損失並びに固定資産除却損の発生に関するお知らせ

当社は、2024年12月期において、減損損失及び固定資産除却損を計上する見込みとなりましたのでお知らせいたします。また最近の業績動向を踏まえ、2024年２月15日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

１．業績予想の修正

（１）2024年12月期（累計）業績予想の修正（2024年１月１日から2024年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	860	△111	△57	△57	△33.24
今回修正予想（B）	773	△98	△108	△853	△496.54
増減額（B-A)）	△87	+13	△51	△796	464.30
増減率（%）	△10.1	－	－	－	－
（ご参考）前期実績（2023年12月期）	1,161	58	48	△34	△20.02

（２）業績予想の修正の理由

売上高は、フランチャイズにおいて、初期投資額や光熱費の高騰及び税制改正により節税メリットの享受が縮小されたことにより、受注が減少し当事業年度は９店舗の出店に留まりました。直営店は、直営店近辺に出店した運営受託の店舗に顧客が分散されたことにより、前年よりも店舗売上高が減少いたしました。運営受託店舗は、店舗売上高は成長しているものの、当初想定していたよりも下回りました。その結果、運営受託オーナーから受け取る運営委託料は、当社側は店舗売上高の変動の影響を受けるため、当社の収入が減少いたしました。それらの結果、売上高は当初予想を下回る予定であります。

営業利益及び経常利益は、販管費及び一般管理費の削減に注力し、一定の成果をあげたものの、運営受託店舗の営業損失の影響により当初予想を下回る予定です。

当期純利益については、不採算店舗である運営受託１店舗を撤退したことにより固定資産除却損18 百万円を計上いたしました。

２．減損損失並びに固定資産除却損の発生理由

当社の「フトン巻きのジロー」ブランドの店舗において、当初想定よりも収益性が低下している直営店９店舗及び運営受託 25 店舗は、減損損失として 726 百万円を計上した結果、当初予想を下回る見込みとなりました。

減損となった店舗の要因としては、直営店については近隣店舗への運営受託店舗出店により収益力が低下したこと及びお任せ洗い店舗をセルフオンリーの店舗に業態変更したことから、成長は継続しているものの、想定していた売上高に達していないことによるものです。これらにより小山駅南店、岩曽店、下野祇園店、佐野高萩店、茂原店、上戸祭店、山形北町店、諫早福田店、鹿沼東町店の設備及び機械を減損損失として計上することに至りました。

運営受託店舗は、店舗売上高は成長過程であるものの、運営受託オーナーからの受託収入が想定より減少しているため、すべての運営受託店舗で営業損失となっています。そのため、小山城北店、小山西城南店、北若松原店、岩曽２号店、壬生店、栃木片柳店、栃木平柳店、自由が丘店、真岡店、大田原店、野木店、蒲田店、下岡本店、砂町銀座店、千歳烏山店、館林店、中野鷺宮店、太田内ケ島店、所沢店、小岩店、伊勢崎店、渋川有馬店、高崎貝沢店、山形南栄町店、富谷大清水店の設備及び機械を減損損失として計上することに至りました。

また 2021 年９月 30 日付で株式会社アレクシードから直営店舗を事業譲受した際に計上したのれん、店舗に係るソフトウェアを減損損失として計上することに至りました。

なお、この減損損失により、純資産は△372 百万円の債務超過となりますが、2025 年 12 月期以降は、減価償却費の残償却期間である２年から約 30 年に渡って、合計で 726 百万円の償却負担がなくなります。このため、同期間中は、営業利益、経常利益及び当期期純利益を押し上げる効果が見込まれます。

(注)上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上